

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(4月15日～4月21日)

2024年5月15日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ベラルーシ・ロシア首相会談(4月15日)
- シェスタコフ外務次官の北朝鮮訪問(4月16日～18日)
- ジャファリ・イラン国防軍需次官のベラルーシ訪問(4月21日)

【外交】

●ベラルーシ・ロシア首相会談(於:モスクワ)

(1)ゴロフチェンコ首相はロシア側に以下を呼びかけ
・ベラルーシの観光・保養分野への投資
・向こう3年の連合国家プログラムの採択にあたり、エネルギー分野を含めた全ての統合パッケージを採択すること

(2)成果文書

・多目的双発機(軽飛行機)の共同開発に関する協定
・電子署名の認証にかかる手順に関する政府間協定
・ベラルーシ・ロシア両国における投資活性化に向けた総合的な措置

(4月15日 閣僚会議(政府)、国营ベルタ通信)

(2)イム・チョンイル北朝鮮外務次官と会談

・連絡と接触の強化、経済及び文化の分野における協力推進、国際舞台における相互支持で合意。
・地域レベル及び世界レベルの事柄につき意見交換。

(4月17日～19日 露タス通信)

●広島市は8月6日の平和祈念式典にベラルーシ・ロシア両国の代表を招待せず

・ロシアによる対ウクライナ侵略戦争を踏まえたもの。市は本決定を日本政府にも通達。

・ベラルーシ・ロシア両国は、2022年以來3年連続で招待されていない。

(4月17日 朝日新聞、ポジルク)

●米国、カナダによる対ベラルーシ制裁の拡大

(1)米国

・新たにベラルーシの国营企業や、世界的な武器ネットワークに参与している10人及び12の法人に制裁を導入。

・米国内の資産凍結、米国人及び米国企業に対し制裁対象者・企業との取引を禁止。

(2)カナダ

・ベラルーシの治安関係者・判事等21人に制裁を導入。

・カナダ国内の資産凍結、カナダ入国禁止、カナダ人に対し制裁対象者との取引を禁止。

(4月15日 米国財務省、カナダ政府)

【内政】

●捜査委員会に、本人の承諾なしで個人情報へのアクセスを認める法律改正案が採択

(4月16日 代表者院(下院)、「ゼルカロ」)

●ドミトリエフ元大統領候補の釈放

・4月20日に刑期を終え、釈放。

・同人は現在、ベラルーシ国外に滞在中。

(4月20日 ラジオ・スヴァボダ(RFE/RL)、ポジルク、「ゼルカロ(鏡)」)

●4月21日現在の政治犯の数は1,396人

(4月21日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

●シェスタコフ外務次官の北朝鮮訪問(4月16日～18日)

(1)マチェゴラ駐北朝鮮ロシア大使と会談

【軍事・安全保障】

●「モズィリ製油所」(ゴメリ州南部)周辺に対空ミサイルの部隊が展開

(4月15日「ベラルスキ・ハユン」)

●ジャファリ・イラン国防軍需次官のベラルーシ訪問

・4月21日、ジャファリ・イラン国防軍需次官がミンスクに到着。同氏は2023年2月にも、イランの工科大学の副学長としてベラルーシを訪問。

・ベラルーシ・イラン両国間では、2023年夏以降は特に、軍高官による相互訪問が続いている。

(4月21日 レヴェンコ国防省国際軍事協力局長「X」)

【治安・犯罪】

●違法薬物の取り締まり

・4月17日、国家国境委員会は、ポーランドから麻薬2kg超を持ち込もうとした男性を国境で拘束した旨発表。

・4月18日、捜査委員会は、ベラルーシ経由でロシアに違法薬物を運搬に関与していた4名を逮捕し、580kgの薬物を押収した旨発表。

(4月17日 国家国境委員会、18日 捜査委員会)

●リトアニア側国境検問地点「メディニンカイ」(ベラルーシ側「カメンヌイ・ログ」)での火災の発生

・4月18日未明、ベラルーシからの密輸たばこを運搬していた車両を検査している最中に、火災が発生。同火災により、リトアニア側、ベラルーシ側双方の検問所の通行を停止。

・18日午前7時ごろに鎮火され、午後1時、国境検問地点は通常通り運行を再開。

(4月18日「ゼルカロ(鏡)」)

【経済】

●国際通貨基金(IMF)によるベラルーシの経済成長見通し(2024年4月)

	2024年	2025年
経済成長率	2.4%	1.1%
物価上昇率	6.3%	6.5%

(4月16日 IMF)

●2024年第1四半期のGDPは530億ベラルーシ・ルーブル(約164億米ドル相当、前年同期比104.1%)

・GDPデフレーター指数は、前年同期比108.7%。

(4月17日 国家統計委員会)

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表の動向

・4月15日から16日にかけて、カナダを訪問。トルドー首相、ジョリー外務大臣らと会談。

・18日、イタリアで開催されたG7サミットを訪問。同サミットでは、初めてベラルーシが議題となった。チハノフスカヤ氏は、ベラルーシにおける人道危機や政治犯の釈放等につき、ブリンケン米務長官、ベアボック・ドイツ外務大臣、ケメロン英国外務大臣、セジュール・フランス欧州・外務大臣、ジョリー・カナダ外務大臣、タヤーニ・イタリア外務大臣、ボレル EU 外務・安全保障政策上級代表らに訴えた。

(4月21日 チハノフスカヤ氏公式サイト)

●反体制組織「サイバーパルチザン」が国営「グロドノ窒素」に大規模サイバー攻撃

・社内システムからデータを窃取。

・復旧の引き換えに政治犯の釈放を要求。

(4月17日「ゼルカロ(鏡)」)

●ウクライナ側で戦うベラルーシ人義勇兵の支援組織「Prague Support Team」は、ウクライナ軍向けにドローン生産を開始

(4月18日「ゼルカロ(鏡)」)

【その他】

●ミンスク郊外ノヴァヤ・ボロヴァヤで1週間以上にわたって水道水が汚濁

(4月16日「ゼルカロ(鏡)」)

●北朝鮮がベラルーシ人の学者に博士号を授与

・朝鮮中央通信によれば、授与式は4月15日に平壤で行われ、ベラルーシ国立ヴィテプスク獣医学アカデミーのある研究室長に授与された。同人は、北朝鮮の自力更生の思想と政策の正しさ・卓越性を証明したとされる。授賞式にはチョン・スングク副首相、パク・チョルジュン朝鮮社会科学者協会副委員長らも出席。

・受賞者の名は明らかにされていないものの、同アカ

デミーのホームページから、セルゲイ・デヴァティフ社会的・人間的規律及び農業ビジネス研究室長が、2017年に同アカデミー内で北朝鮮に関する展示を行ったこと、2023年に学生とともに在ベラルーシ・北朝鮮大使館が開催したレセプションに出席していたことが伺える。

(4月17日 ベラルーシ語 TV局「ベルサト」、「ゼルカロ(鏡)」)

●2023年にドイツがシェンゲン査証を発給した外国人のうち、ベラルーシ人は5番目に多い51,872件

- ・2019年以前と比較し1.5倍に増加。
 - ・ドイツがシェンゲン査証を発給した外国人のうち、最も多かったのはトルコ人で、次いで中国人、インド人、コソボ人。
 - ・現在ベラルーシ人にシェンゲン査証を発給しているのは、ポーランド、イタリア、スペイン、ギリシャ、フランス、ハンガリー、クロアチア。
 - ・また、2023年のベラルーシ人に対するドイツの査証の発給件数は2,173件(うち、就労が529人、留学が157人、配偶者や子ども、両親との合流が777人、人道的理由での滞在許可を申請したのは39人)。
- (4月18日 「ゼルカロ(鏡)」)

【統計等】

●2023年のベラルーシ・ロシア両国間の投資

- チェボタリ経済大臣は要旨以下を述べた。
- ・2023年、ロシア資本によるベラルーシへの投資額は、前年比33%増となる51億ドル。
 - ・ベラルーシ資本によるロシアへの投資額は、この5年間に45%増。
- (4月15日 経済省)

●ベラルーシ・イラン二国間貿易はこの1年で3割増

- ・イラン「タスニム通信」が、ゴダリ・イラン貿易振興庁(TPOI)中央アジア・コーカサス・ロシア部長の発言を報道。2023年3月21日から2024年3月19日の期間(イラン歴1402年)の推移。
- ・イランからベラルーシへの輸出
2,000万ドル(前年比134%)

- ・ベラルーシからイランへの輸入
5,900万ドル(" 135%)
(4月16日 イラン・ニュースデイリー、ポジルク)

●アンドレイチク・スポーツ観光次官:2023年にベラルーシを訪問した観光客580万人中、ロシア人観光客は500万人以上

(4月16日 国営ベルタ通信)

(了)